

肝臓通信

発行 田中内科クリニック

Vo 1.12

H31年 春号



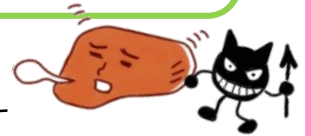
吹く風もさわやかな好季節になりました❀

今回は前回に引き続き、肝がんの原因の65%を占めるC型肝炎についてです。

朗報です！進行したC型肝炎硬変でも、直接作用型抗ウイルス薬でC型肝炎ウイルスを駆除することができるようになりました。

肝硬変とは

C型肝炎ウイルスにより慢性肝炎になり、肝細胞が壊されたり再生したりを繰り返すうちに、肝臓が繊維状になり硬くなってしまいう状態をいいます。肝硬変になると、肝臓の働きは低下し、元の状態に戻ることはなかなかできません。さらに病態が進むと肝臓や周辺臓器の障害が高度となって黄疸や腹水、肝性脳症、静脈瘤、出血傾向などの症状があらわれる可能性があります。やがて肝がんや肝不全へと進展してしまう危険性があります。



進行したC型肝炎硬変の方に使用できる抗ウイルス療法

肝硬変の患者さんが、抗ウイルス薬の服用によって体の中からウイルスを排除できると次のようなことが期待できます。

- ① 肝臓の働きが改善する。
- ② 合併症などの症状が良くなる。
- ③ 肝がんになる危険性が低くなる。

どんな薬？

1日1回1錠の飲み薬です

C型肝炎は、遺伝子型で大きく1型～6型に分類されます。この配合錠は、すべてのタイプのC型肝炎硬変の患者さんに服用いただけます。お薬を飲み忘れると、血液中の濃度が下がり、ウイルス排除が難しくなることがあるため、12週間(3ヵ月)にわたり毎日服用することが必要です。



エプクルーサ配合錠

エプクルーサ配合錠は、直接ウイルスを攻撃する「直接作用型抗ウイルス薬(DAA)」という種類の飲み薬で、併用するお薬はなく、単体でC型肝炎の治療が可能です。安全に使用でき、高い効果を得られています。耐性ができにくく、肝機能への影響が少ないといわれています。

過去に、飲み薬による「抗ウイルス療法」で、ウイルスが消えなかった、あるいは一旦消えたけれど再燃してしまった方にも効果を期待できるお薬です。この場合は24週間(6ヵ月)服用になります。

服用中、服用後は定期検査を受けます

お薬を服用している間やウイルスが消えたかどうかを観察している間は、お薬の効果や副作用の有無、ウイルスが体から排除されたかを調べるため、定期的に検査を受けることが必要です。また、ウイルスが消えた状態になっても、肝がんが発生するリスクが完全になくなるわけではないので、治療終了後も肝がんや肝機能を調べる検査を定期的に受けます。

C型肝炎の治療は非常に高額であるため患者さんの医療費負担を軽減するために、国と都道府県が行っている公的な医療費助成制度が受けられます。



肝炎コーディネーターとしての取り組み



肝炎コーディネーターは、肝炎の患者さんが安心して検査や治療を日常生活を送ることができるように、検査・治療方法・服薬・治療費の助成制度など肝炎に関する知識をもち、患者さんをサポートしていきます。当クリニックでも看護師4名がコーディネーター養成研修を修了しています。お気軽にお声をおかけください❀